

第6学年 国語科学習指導案

日 時 令和8年9月8日（火）第5校時

13:25～14:10

対 象 第6学年2組 24名

学校名 墨田区立第一寺島小学校

授業者 大塚 万里萌

会 場 4階 6年2組教室

令和8年度 研究主題

学びを深める児童の育成

～自分の思いや考えを伝え合う活動の充実を通して～

- 1 単元名 宮沢賢治作品を読んで、「読書座談会」で疑問を解き明かそう

教材名 『やまなし』（光村図書 6年）

並行読書材 宮沢賢治作品:おきなぐさ、いちょうの実、カイロ団長、かしわばやしの夜、
ざしき童子のはなし、シグナルとシグナレス、なめとこ山の熊、雨二モマケズ、蛙の消滅、
月夜のでんしんばしら、鹿踊りのはじまり、土神と狐、猫の事務所、度十公園林、
注文の多い料理店、雪渡り、よだかの星、双子の星、どんぐりと山猫、
セロ弾きのゴーシュ、オッベルと象、銀河鉄道の夜、すいせん月の四日

- 2 単元の目標

- ・比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。〔知識及び技能〕（1）ク
- ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。

〔知識及び技能〕（1）カ

◎宮沢賢治の作品を読んで、物語の全体像を具体的に想像した上で抱いた疑問について、「読書座談会」で交流し、作品の描かれ方や作品に込められた思いについて、互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりすることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）カ

- ・宮沢賢治作品の疑問を解き明かすために、本を繰り返し読んだり他作品と比較したりして、宮沢賢治が作品に込めた思いを考えながら読もうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 単元の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力・判断力・表現力等	ウ 学びに向かう力・人間性等
① 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 (1) ク ② 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1) カ	① 宮沢賢治の作品を読んで抱いた疑問についてまとめた意見や感想を共有し、友達の読みや他の作品と関連付けながら、互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりすることができる。C (1) カ	① 宮沢賢治作品の疑問を解き明かすために、本を繰り返し読んだり他作品と比較したりして、宮沢賢治が作品に込めた思いを考えながら読もうとしている。

4 児童の実態

本学級の児童は読書への関心が高く、休み時間や家庭でも進んで本を読む児童が多い。これまでの文学的な文章の学習においても、登場人物の心情や作品の内容について自分なりの考えをもつことができている。

- ・5年生の「銀色の裏地」では、登場人物の人物像や心情の変化について交流しながら具体的に想像し、その学びを生かして続きの物語を書く活動を行った。また、「たずねびと」では、戦争を題材とした並行読書材を読み、「一押しの理由」を考えて友達に紹介した。
- ・5年生の「大造じいさんとガン」では、人物像や物語の全体像を具体的に想像するとともに、作品から伝わるメッセージや題材を強く意識させる表現について交流しながら読みを深め、「心に響いた一文」とその理由を紹介し合った。また、並行読書を通して複数の作品を関連付けて読む経験も積んできた。
- ・6年生の「帰り道」では、登場人物相互の関係や心情の変化について交流しながら読み、友情を題材とした並行読書材の中からお気に入りの一冊を選んで5年生に紹介した。紹介する際には、人物相関図を用いて登場人物の関係を整理したり、心に残った内容とその理由について自分の考えをまとめたりした。

また、話し合い活動では友達の考えを最後まで聞こうとする姿勢が育っており、他者の意見を受け入れながら学習に取り組むことができる。一方で、友達の意見に対して疑問をもったり、自分の考えとの違いを基に考えを深めたりすることには課題が見られる。友達の意見に対して肯定的な反応を示すことはできるものの、自分の考えを根拠とともに伝えたり、対話を通して互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりする姿は十分とは言えない。

そこで本単元では、「やまなし」及び他の宮沢賢治作品に関する疑問や解釈について読書座談会を行い、一つの答えを求めるのではなく、異なる考えに触れながら自分の考えを広げ、宮沢賢治が作品に込めた思いについて、互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりすることを目指したい。

5 教材について

『やまなし』は、宮沢賢治が残した作品の中でも、読者によって様々な解釈が生まれる文学作品である。作品中には「クラムボン」や五月と十二月の場面構成など、明確な説明がなされていない表現が多く見られ、読者は叙述を基にしながら意味や作者の意図について考えを形成していく必要がある。そのため、一人一人が疑問をもち、それを交流することで新たな視点や解釈に出会うことができる教材である。また、資料『イーハトーヴの夢』は、宮沢賢治の生涯や作品への向き合い方を知ることができる資料である。『やまなし』を読んで生まれた疑問や考えを、作者に関する資料と結び付けながら考えることで、作品理解をさらに深めることが期待できる。

また、宮沢賢治の作品には、読者が立ち止まって考えたいくなる表現や、様々な見方・考え方を生み出す表現が数多く見られる。作品の解釈が一つに定まらないからこそ、互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりすることができる。本単元では、『やまなし』や他の宮沢賢治作品と『イーハトーヴの夢』を関連付けながら読むことを通して、作品の解釈だけでなく、「宮沢賢治はどのような思いや考えをもちながら作品を書いたのか」という問いについても考えを広げることができる。グループ交流によって多様な見方に触れながら、自分なりの宮沢賢治像を形成していくことのできる教材である。

6 研究主題との関連

(1) 目指す児童像

低学年	中学年	高学年
言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする子

(2) 研究主題に迫るための手立て

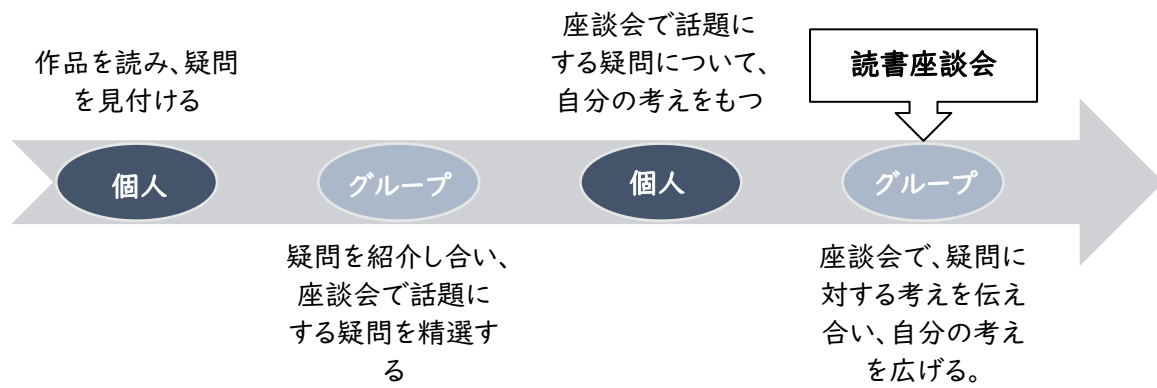
①言語活動の工夫

ア 言語活動

宮沢賢治作品を読み、「宮沢賢治作品の疑問」をテーマにした読書座談会において、互いの意見や感想を共有し、違いを明らかにしたりよさを認め合ったりしながら、宮沢賢治が作品に込めた思いについて自分の考えを広げる。

イ 言語活動の特徴

指導事項 C (1) カ「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること」を実現するために、言語活動を「宮沢賢治作品の疑問について読書座談会で交流し、宮沢賢治が作品に込めた思いについて考えを広げよう」と設定した。読書座談会までの流れとして、以下の図のように個人の考えをもつ時間と、グループでその考えを共有する時間とを交互に取り入れた。このことにより、児童が自身の宮沢賢治作品についての考えをもったうえで、読書座談会において友達と交流し、互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりすることができる。と考える。



上記の図は、第二次の『やまなし』を読んでの読書座談会までの流れである。この後、第三次では並行読書材で同じ流れて読書座談会を行う。

ウ 言語活動モデル



Aさん

どうしてジョバンニがカムパネルラと一緒に銀河鉄道に乗っていたのかが疑問に思ったよ。ほくは、二人は仲の良い友達だから一緒にいたのかなって思ったんだ。

私も同じように思ったよ。〇ページの〇行目に、カムパネルラはジョバンニを気の毒に思ったってことが書いてあったり、〇ページの〇行目では銀河鉄道の中でもジョバンニの「一緒に進んでいこう」にカムパネルラが「ああきつと行くよ。」って言っていたり、見えないところでも互いを大事に思っている感じ。



Bさん



Cさん

私は少し違う考えだよ。むしろ二人はそんなに仲良くないけど、たまたま同じ銀河鉄道に乗ったんじゃないかと思った。だって、〇ページの〇行目、ザネリたちと一緒にあってジョバンニを笑っていたよ。だけど、カムパネルラは銀河鉄道の中でジョバンニと話す中で、ジョバンニとやっぱり仲良くなりたいって思ったのかもしれない。

BさんとCさんの考えは違うね。でも、銀河鉄道での会話で、2人が近い考えをもつようになったっていうところは、少し似ていると感じたよ。『双子の星』でも、チュンセとボウセの二人で一緒になって行動していたけど、双子は初めから似た者同士で、ジョバンニたちは物語の中で仲良くなっていたという感じがしたなあ。



Dさん



Aさん

なるほど。ほくは、はじめは「二人は仲良しの友達」と考えていたけれど、みんなの話を聞いて、銀河鉄道に乗る前と乗った後で、二人の関係が変わっているかもしれないと思うようになったよ。もう一度、二人の関係が変化していったことが分かるところを読み返してみたいな。

② 交流活動の工夫

ア 指導事項との関わり

本単元で重点を置いている資質・能力は、高学年の共有「宮沢賢治の作品を読んで、物語の全体像を具体的に想像した上で抱いた疑問について、「読書座談会」で交流し、作品の描かれ方や作品に込められた思いについて、互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりすることができる」ことである。そのため、モデル動画を作成する際は、叙述を根拠にした自分の考えを伝える言葉や、友達の考えとの違いについて触れる言葉を動画に取り入れた。また、互いの意見や感想のよさを認め合うための手立てとして、友達の意見や感想を全文シートに書き込む場面を意図的に取り入れ、当該単元で育てたい資質・能力を確実に育てられるようにした。

イ 学習経験との関わり

本学級の児童は、初めて読書座談会を行う。そのため、以下の点に留意して動画を作成した。

- ・考えの根拠となる叙述をもとに交流ができるよう、友達の考えに対して「どこからそう思ったの」と聞いたり、「〇ページの〇行目にこう書いてある」と叙述を指さして言ったりする場面を示した。
- ・互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりすることができるよう、友達の考えを聞いて全文シートに線を引く場面を示したり、「A という意見も出たし、B という意見も出たね。」と互いの意見の違いに触れる言葉を示したりした。

ウ モデル動画の台本

モデル動画台本③『並行読書材』の疑問について交流する														人
④	②	①	③	①	②	全	③	①	④	①	④	③	②	①
前回、みんなが『銀河鉄道の夜』を読んで、いろいろ疑問が出てきたよね。まずは、カムパネルラはなぜ最後になくなったのかについて考えようか。②さんはどう考えているの？ うーん、私は、カムパネルラはザネリを助けるために犠牲になったんだと思う。〇ページの行目、舟がゆれたもんだから水へ落っこつたろう。するとカムパネルラがすぐ飛びこんだんだ。って書いてあるよ。 私も同じ。〇ページ、行目にも「カムパネルラもまた、高く口笛を吹いて向こうにぼんやり見える橋の方へ歩いて行ってしまったのだった。」って書いてあって、川の方に行ってたもんね。 私が思ったのは少し違うかも。カムパネルラは、ザネリのことだけじゃなくて、もともと人のために生きたいっていう気持ちを持っていたんじゃないかな。 え、どういうこと？どこからそう思ったの？ 〇ページの行目に、「ほんとうにみんなのさいわいのためなら僕からだなんか百べん灼いてもかまわない。」ってジョバンニが言ってる、それにカムパネルラも「僕だってそうだって言っているから、ザネリじゃなかったとしても、誰だったとしても、カムパネルラは助けるんじゃないかな。 うーん、でも待って、その後に「けれどほんとうのさいわいはいったい何だろう。」「僕わからない。」って言ってるよ。そんな曖昧なのに自分の命をかけて関係ない人でも助けるかなあ。 確かになあ。カムパネルラの中にも迷いがありそうだね。カムパネルラにとつての「ほんとうのさいわい」ってなんだっただろう。物語全体を通して、関係する叙述はあるかなあ。 うーん…。(叙述を探す) あ、これは？〇ページの行目、青年の話はジョバンニたちと、姉弟が聞いているところ。青年は自分の命を犠牲に、全然知らない人たちの助けを思いだして思っていたんだよね。青年は「ただいまはほんのさいわいに至るためにいろいろのさしひもみんなおぼしめしてす」って言うっているから、青年にとつてはどんなにいいことがあっても、だれかの助けになるならそれが一番って思っているんじゃない？ え、待って。それイーハトーヴの夢にも同じような話でできた気がする。宮沢賢治は肺炎のとき呼吸もできないくらい苦しいのに、見知らぬ人がたずねてきて一時間以上も丁寧に教えてあげたって。これまさに青年の話に似てない？ あり確かに！宮沢賢治にとつてもそれが「ほんとうのさいわい」だったのかなあ。 カムパネルラの行動を見ると、「ザネリを助けたかったから」っていう意見も出たし、宮沢賢治の考え方に目を向けた「ザネリに限らず誰かのためになりたかったから」っていう意見も出たね。 なんか、だいたいすっきりしてきた！ありがとう。 じゃあ、次の疑問にいきましょうか。次は、この疑問なんだけど…。														備考

7 単元の指導計画と評価計画（9時間扱い）

次	時	学習内容・学習活動	学習活動に即した具体的な評価規 準（評価方法）
第一次	1	宮沢賢治作品を読み、疑問に感じたことを読書座談会で交流し、考えを広げよう。 - 読書座談会のモデル動画を見て、読書座談会の仕方を知る。 - 学習計画を立てる。 - 読書座談会に向けて「やまなし」「イーハトーヴの夢」を読む。	
第二次	2	「やまなし」① 「やまなし」の解き明かしたい疑問を見付けよう。 「やまなし」を読み、解き明かしたい疑問を見付ける。	【知識・技能】 - 比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。 (全文シート・付箋) - 文章の構成や展開、文章の種類と その特徴について理解している。 (全文シート・付箋)
	3	「やまなし」② 「やまなし」の解き明かしたい疑問をグループで紹介し合い、疑問に対する自分の考えをもとう。 - 一人一人が「やまなし」を読んで抱いた疑問を持ち寄り、「読書座談会」で話題にする内容を精選する。 - 叙述を確かめればすぐに解決できる疑問は、その場で解決する。 - 疑問が全て解決した場合は、分かったことを基に、さらに考えてみたいことについて考え、「読書座談会」で話し合いたいことを見付ける。 - 解決したい疑問の答えになりそうな叙述を探し伝えたい解釈などを見付け、自分の考えをもち、全文シートに書き込む。	【思考・判断・表現】 宮沢賢治の作品を読んで抱いた疑問についてまとめた意見や感想を共有し、友達の読みや他の作品と関連付けながら、互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりすることができる。 (座談会・ノート・全文シート)

	4・5	「やまなし」③④ 読書座談会を行い、叙述をもとに疑問を解き明かそう。 ・一人一人が「やまなし」を読んで抱いた疑問について、全文シートを用いて叙述を根拠にグループで交流する。 ・友達の疑問についても、自分の考えや関連する叙述を伝える。 ・友達の考えを受けて、「同じ」「違う」「付け足し」「質問」などで考えをつなぐ。 ・「読書座談会」を経て、自分の疑問や解釈について、考えがどう変わったり、広がったりしたかを振り返る。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・宮沢賢治作品の疑問を解き明かすために、本を繰り返し読んだり他作品と比較したりして、宮沢賢治が作品に込めた思いを考えながら読んでいる。(ノート)
第三次	6	「並行読書材」① 自分が選んだ宮沢賢治作品を読み、解き明かしたい疑問を見付けよう。 ・宮沢賢治作品から選んだ作品を読み、解き明かしたい疑問を見付ける。	
	7	「並行読書材」② 並行読書材の解き明かしたい疑問をグループで紹介し合い、疑問に対する自分の考えをもとう。 ・同じ作品を選んだ児童同士で、読んで抱いた疑問を持ち寄り、「読書座談会」で話題にする内容を精選する。 ・叙述を確かめればすぐに解決できる疑問は、その場で解決する。 ・疑問が全て解決した場合は、分かったことを基に、さらに考えてみたいことについて考え、「読書座談会」で話し合いたいことを見付ける。 ・解決したい疑問の答えになりそうな叙述を探し伝えたい解釈などを見付け、自分の考えをもち、全文シートに書き込む。	

	8・9 (本時)	「並行読書材」③④ 読書座談会を行い、叙述をもとに疑問を解き明かそう。 ・一人一人が物語を読んで抱いた疑問について、全文シートを用いて叙述を根拠にグループで交流する。 ・友達の疑問についても、自分の考えや関連する叙述を伝える。 ・友達の考えを受けて、「同じ」「違う」「付け足し」「質問」などで考えをつなぐ。 ・必要に応じて「やまなし」や「イーハトーヴの夢」、他の宮沢賢治作品に立ち返り、作品同士を関連付けて考える。 ・「読書座談会」を経て、自分の疑問や解釈について、考えがどう変わったり、広がったりしたかを振り返る。	
--	-------------	--	--

8 本時（全9時間中の第9時間目）

（1）本時の目標

読書座談会を行い、友達の意見や感想と自分の考えを比べたり、叙述や他の作品と関連付けたりしながら、宮沢賢治作品の疑問について自分の考えを広げることができる。

（2）本時の展開

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 (1分)	1. 本時のめあてと、本時の「読書座談会」で是非とも解き明かしたい自分の疑問やその予想を各自で確かめる。	・疑問を各自で確認し、すぐ「読書座談会」に入る。 ・「読書座談会」で大切にすることは前時までに共有しておき、本時には説明し直さない。	

読書座談会を行い、叙述をもとに疑問を解き明かそう。

展開 (39 分)	2. 選んだ作品の疑問について「読書座談会」を通して交流する。	・これまでの学習で着目した叙述や自分の考えを書き込んだ全文シートを手元に置き、叙述を指し示しながら交流できるようにする。 ・友達の考えを聞いて新たに着目した叙述や、自分の考えを見直すきっかけとなった叙述には、その場で線や印を付けるように促しておき、交流を通して新たに着目した叙述や、考えの変化を全文シート上に残せるようにする。 ・複数の叙述を結び付けたり、他の作品と結び付けたりしている児童を価値づける。 ・教師も参加者として話し合いに加わり、「どの言葉から?」「○○さんの考えと比べると?」「他の作品とつながるところは?」など、必要に応じて、児童同士のやり取りを促して支援する。	【思考・判断・表現】 イー① 宮沢賢治の作品を読んで抱いた疑問についてまとめた意見や感想を共有し、友達の読みや他の作品と関連付けながら、自分の考えを広げている。 (発言・ワークシート) 【A 規 準】 友達の意見や感想を比較し、複数の叙述や他作品と関連付けながら、宮沢賢治が作品に込めた思いについて自分の考えを見直したり、新たな考えを付け加えたりしている。 【B 規 準】 友達の意見や感想を受け、自分の考えと比べたり関連付けたりしながら、宮沢賢治作品に対する自分の考えを広げている。 【B 基準に達しない児童への手立て】 自分があらかじめ線を引いた叙述や友達が着目した叙述を手掛かりに、「同じ」「違う」「質問」などから友達の考えに反応できるようにする。また、必要に応じて教師が問い返し、自分の考えとの共通点や相違点に気付くことができるようにする。
まとめ (5 分)	5. 振り返りをする。	・今日の「読書座談会」を経て「読書座談会」を経て、自分の疑問や解釈について、考えがどう変わったり、広がったりしたかを振り返り、ワークシートに書く。	